

夏期研修を終えて

学籍番号 M17084

学生氏名 西岡秀悟

出身都道府県 和歌山県

実習期間 8月17日～8月18日

実習施設名 高野山総合診療所

住所 和歌山県伊都郡高野町高野山 631

TEL 0736-56-2911

指導医氏名 廣内幸雄先生(1期卒)

臨床教員(地域担当)指名 竹井陽先生(29期卒)

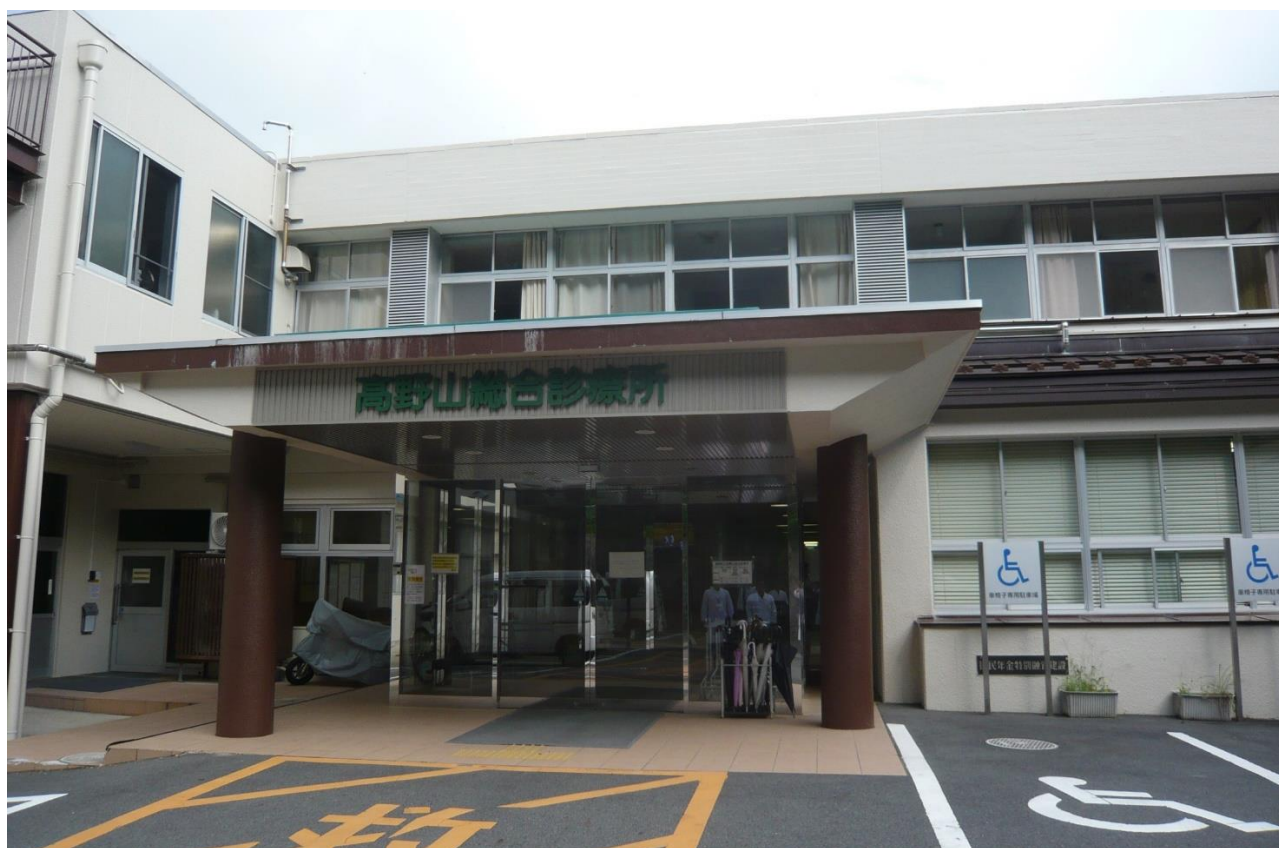
宿泊 有

1. 実習施設とその地域の概要

〈高野山総合診療所〉

今回、高野町立高野山総合診療所で実習させていただきました。高野山総合診療所は平成 24 年までは病院であったが、入院患者数の減少や、医師、看護師の確保困難により総合診療所に移行した。それに伴い、外来診療や入院治療中心から、外来診療や在宅医療、通所リハ中心の体制に移行した。診療科目は内科、小児科、外科、眼科がある。また、総合診療科には1と2があり、1は予約制となっている。

高野山総合診療所の基本方針には、地域住民の健康増進に寄与することと、観光地における緊急医療の確立を掲げている。



〈高野町〉

和歌山県北東部に位置し、高野真言宗の聖地高野山を中心とする町で、貴重な文化財、建造物、名所が数多く存在する。平成 16 年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、日本のみならず世界中から多くの観光客が訪れている。また、外国人観光客の増加に伴い、病気、外傷での診療所への受診が増えている。



2. 実習の目的とその内容

今回の実習の目的は、地域の医療の現状を知ることだ。

1日目には訪問看護、通所リハ、1・2診、検査室の見学を、2日目にはCTなどの検査のさせていただいた。そして、廣内先生に地域医療の現状についてお話をさせていただいた。

〈訪問看護〉

訪問看護では、2人の看護師さんが診療所まで足を運ぶことが困難な患者さんのお宅を訪問し、介護を行う現場に同行させていただいた。患者さんのお宅では、患者さんとコミュニケーションをとりながら、血圧、脈などを測ったり、身体を拭いたり、身体を動かしたりしていた。時には、廣内先生も一緒

に患者さんのお宅に訪問し、診察されているようだ。訪問看護は高齢化が進んでいる僻地では、特に重要な役割を果たしていると思う。また、訪問看護において、床ずれの問題が出てきているらしい。

〈通所リハ〉

術後などのさまざまな理由で、歩行機能の維持や改善を目的に総合診療所に通っている患者さんがいた。高齢化が進む現代社会では、このような予防医療がこれから先必要となっていくだろうと思った。また、実際にリハビリに使う器具はどのようなものかを体験させていただいた。



〈1・2診の見学〉

廣内先生と田中先生の診察を見学させていただいた。診療所を訪れる患者さんは主に高野山の住民と高野山を訪れる観光客だ。住民の方は慢性疾患を抱えていることが多く、観光客は急性疾患が多いようだ。廣内先生が、最近は医療機器の進歩により、レントゲンやCTなどの画像だけでも診察は可能であるが、患者さんの信頼を得るためにはコミュニケーションをとることが大切であり、また、検査はあくまで診断の補助に過ぎないとおっしゃっていたのが印象的だった。カルテは誰が見てもわかるようにつくることで、別の医師がその患者さんを診察するとき、より診察しやすくなるよう工夫がされていたり、診療時間終了後先生方が集まって、その日診察に訪れた患者さんのカルテを全員で確認していたのも印象的だった。



〈検査室の見学〉

検査室には、採血や採尿で得た血液や尿の成分を調べる機械や、脈波を測定する機会があった。血液や尿を調べる機械は病院内のネットワークにつながれており、測定結果が自動的に先生方のパソコンに送信されるようになっていて、医療機器の進歩を感じた。



〈レントゲン、CT、胃カメラの見学〉

レントゲンは、技師さんに操作方法や、レントゲンの撮影法などの説明を受けながら、レントゲンの写り方を見学させていただいた。CTは、血管に造影剤を流し込み、画像を撮るところを見学させていただいた。この検査により動脈硬化などがわかるらしい。胃カメラはシミュレーターに対して、練習させていただくことができた。胃カメラがシミュレーター内に入ってしまうと、胃カメラがどこにありどのように動いているかを目で確認することができないので、把握するのがとても難しかった。また、胃カメラの発展により、バリウムによる胃透視がどんどん減ってきているらしい。ここでも医療の進歩の速さを感じた。



3. 考察

本実習で、地域医療における患者さんと医師の近さ、患者さんとのコミュニケーションの重要性を感じた。また、地域医療では医師が少ないので、看護師の方々、事務の方々など、地域のさまざまな方々との連携が重要になってくると思った。

早期体験実習では、患者さんのお話を聞き、患者さんの立場に立ってより良い医療について考えたが、今回は、医師の立場に立って、医療について考えることができた。実習前は医学知識がなく不安な面はあったが、地域医療の現状を大まかではあるが掴むことができ、大変貴重な体験となった。

4. 謝辞

今回の夏期研修において、お忙しい中、親身にご指導してくださった廣内先生をはじめ、田中先生、看護師の方々、事務所の方々、見学することを許してくださった患者さんに深く感謝いたします。ありがとうございました。

参考文献 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/03/d1/s0321-7c_0001.pdf